

大阪経済の情勢

(平成 24 年 10 月指標を中心に)

平成 24 年 12 月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、足踏み状態となっているが、一部に弱い動きがみられる」

需要面では、個人消費は、やや弱含んでいる。輸出は、海外経済減速などの影響から引き続き弱含んでいるが、半導体等電子部品は増加。投資は、住宅投資は増加。設備投資(7~9月期)の実績は減少したが、建設投資(10月)は増加。公共投資は増加。

供給面では、大阪府(9月)の生産(製造工業)は、電子部品・デバイスの好調を受けわずかに上昇するも、数ヶ月の動きをみると横ばい。近畿・全国の生産(10月、鉱工業)は上昇。雇用は緩やかな持ち直しの動き。倒産は、件数は減少、負債金額は増加。

先行きについては、景気動向指数(先行)は上昇。今後は、引き続き、欧州や中国等、海外経済や為替の動向、各種政策措置の終了に伴う影響などに注意が必要。

		需要								
		総合	個人消費				投資		貿易・貨物	
		一致CI(大阪)	大型小売店販売(大阪)	コンビニ販売(近畿)	家電販売(近畿)	新車販売(大阪)	新設住宅着工(大阪)	建築物着工(大阪)	輸出(近畿)	関空取扱貨物量
10月			↓	↑		↓	↑	↑	↓	↓
9月		↑	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↓	↑

		供給				その他	
		生産		雇用		倒産	観光
		生産(大阪)	生産(全国)	有効求人倍率(大阪)	失業率(近畿)	倒産(大阪)	関空外国人旅客
10月			↑	→	↑	↑	↑
9月		↑	↓	↓	↓	↑	↑

※前年同月と比較し、上向きの矢印は、景況改善、下向きの矢印は、景況悪化。ただし、CI、生産・在庫指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。倒産件数と失業率は、減少、低下が景況改善となり、上向きの矢印となる。

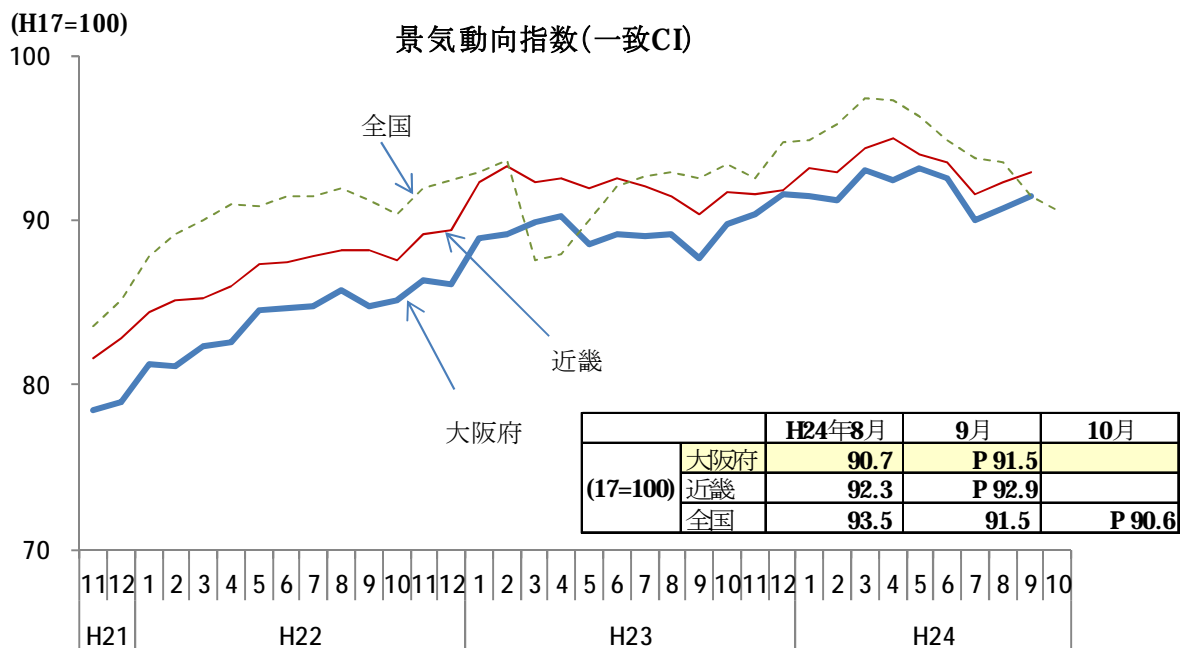
(参考)

内閣府「月例経済報告」(11月、9月指標中心)	景気は、世界景気の減速等を背景として、このところ弱い動きとなっている。 http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html
近畿経済産業局「近畿経済の動向」(11月、9月指標中心)	近畿地域の経済は、足踏み状態となっている。 http://www.kansai.meti.go.jp/1-7research/doukou/kinkikeizai.html
日本銀行大阪支店「近畿地域金融経済概況」(11月、9月指標中心)	近畿地域の景気は、全体として足踏み状態となっているが、一部に弱めの動きがみられている。 http://www3.boj.or.jp/osaka/c.htm
内閣府「地域経済動向」(11月)	近畿地域では、景気は弱含んでいる。 http://www5.cao.go.jp/keizai3/chiki/2012/1128chiki/menu.html

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(9月)の一致は上昇、先行も上昇。近畿は一致が上昇、先行は低下。大阪府(一致)は、主に所定外労働時間指数などが上昇に寄与。全国(10月速報)の一致は低下】

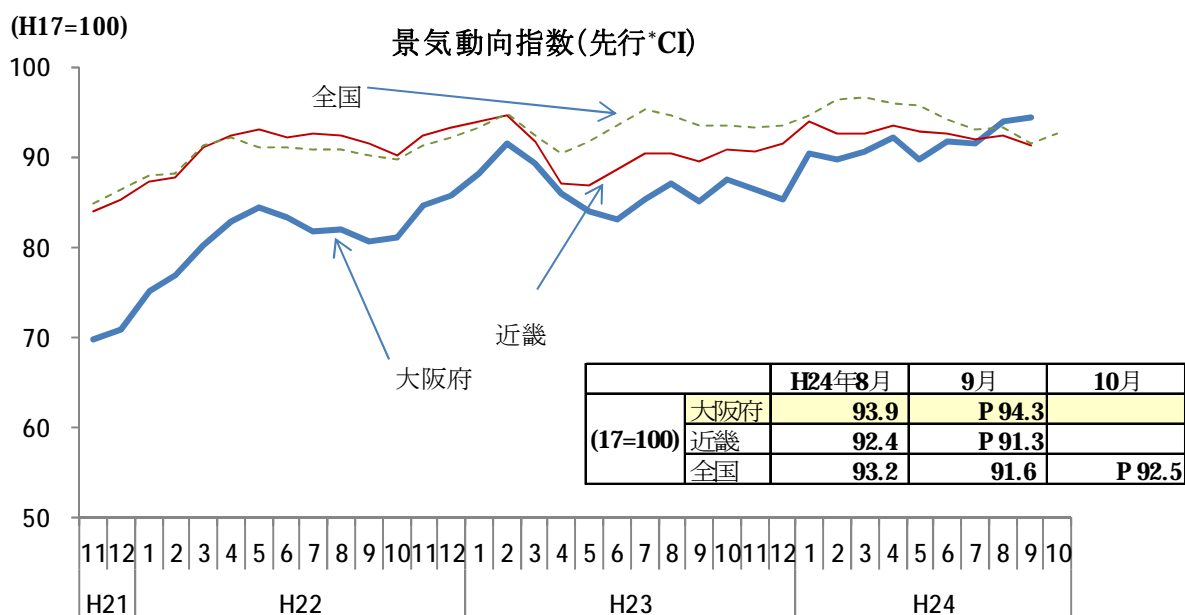


(資料) 大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

大阪府 CI(一致)、9月速報の個別系列の寄与度*

百貨店売場面積 当たり販売額	大阪税関管内輸 入通関額	製造工業生産指 数	生産財出荷指数	関西大口電力使 用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間 指数(製造業)
0.04	0.29	0.05	-0.33	0.29	-0.08	0.57

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。



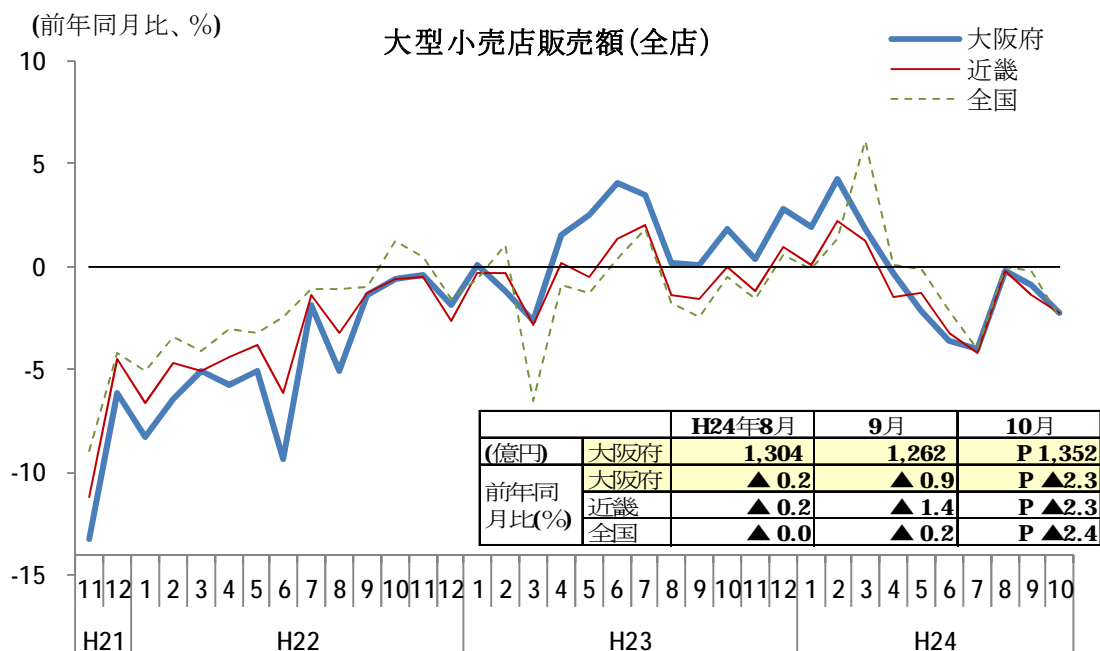
(資料) 大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

※先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

[需要]個人消費

個人消費は、やや弱含んでいる。大型小売店販売は減少し、家電販売も減少、コンビニ販売は増加したが、新車販売はエコカー補助金終了の影響で減少。家計消費支出は減少している。

○大型小売店販売額(全店)【大阪府は7ヶ月連続の減少】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」

商品別の主な増減(大阪府、全店、%(前年同月比)、10月速報)

増加	減少
身の回り品(▲2.1)	家具・家電・家庭用品(▲5.2)
	衣料品(▲3.6)

既存店ベースの増減(10月速報)

前年同	大阪府	P ▲2.4
月比	近畿	P ▲2.6
(%)	全国	P ▲3.2

業態別の状況(大阪府、全店、10月速報)

	百貨店	スーパー
販売額(億円)	P 665	P 687
前年同月比(%)	P ▲2.0	P ▲2.6

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は13か月連続の増加】

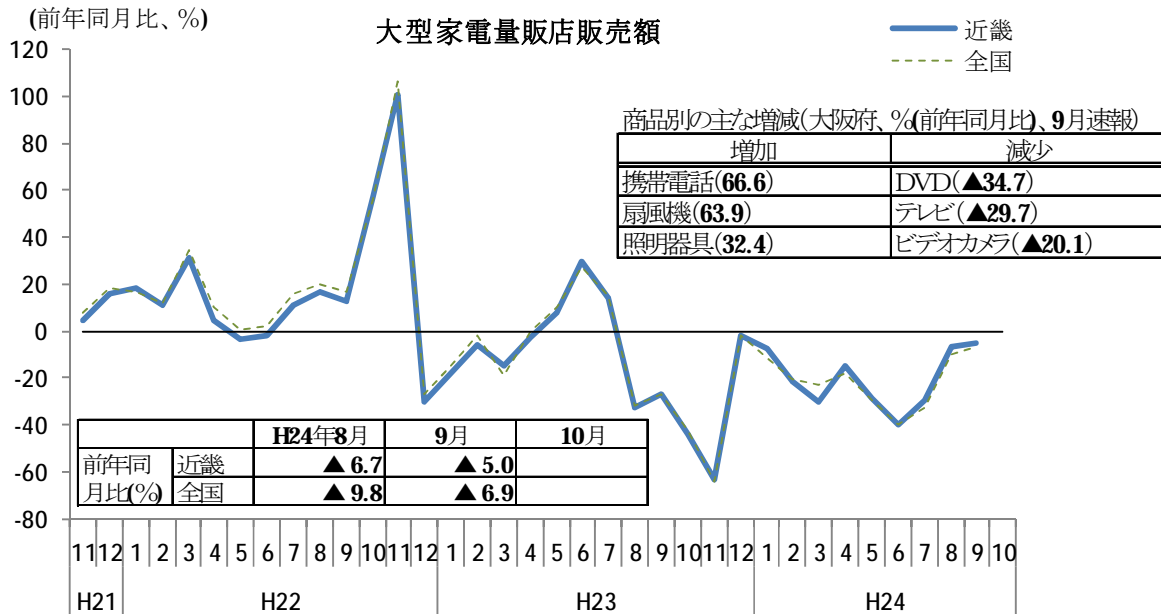
	H24年8月	9月	10月	
(億円)	近畿	1,249	1,146	1,168
前年同月比(%)	近畿	2.4	2.8	2.5
	全国	3.1	2.7	2.2

(参考)大阪府内大型小売店へのヒアリングより

10月は上旬に気温が高めに推移し秋冬関連商品の動きが鈍かったが、中旬以降は気温も下がり季節商品がよく動いた。ただし、一部小売業では好調が続いたトラベル関連商品の売上げが前年を下回った。食料品は、野菜が苦戦するも、一部の菓子やおせち料理の予約が好調であった。

[需要]個人消費

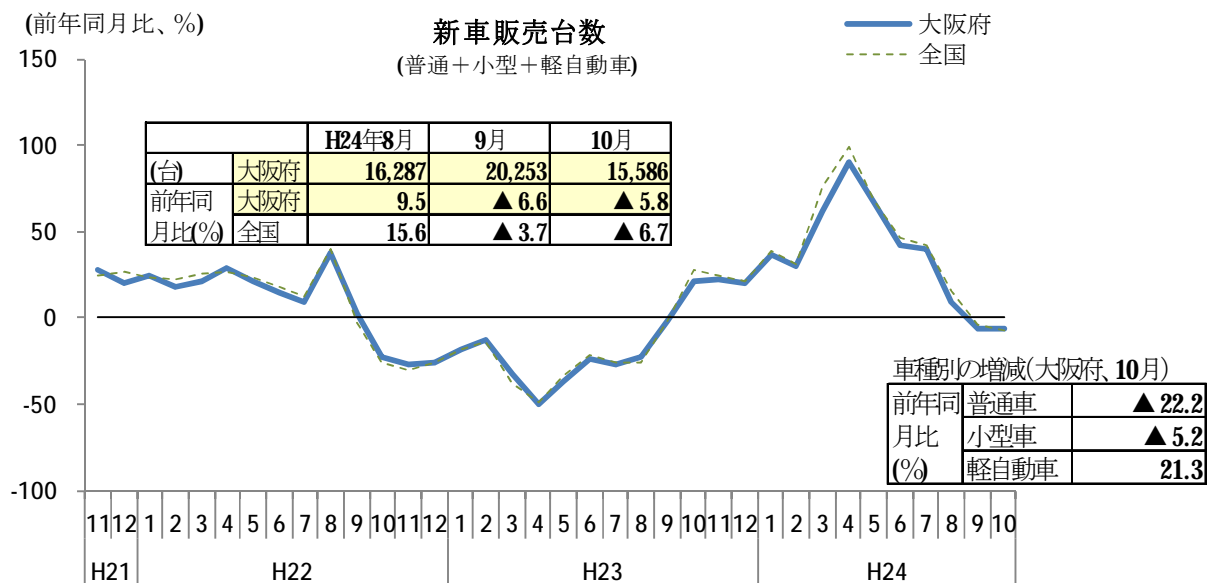
○大型家電量販店販売額【近畿(9月)は 14 か月連続の減少。DVD、テレビなどが減少したが、携帯電話などは増加】



(資料)近畿経済産業局「近畿経済の動向」

※平成 23 年4月分よりデータ集計対象企業が変更されたため、前後のデータと連続しない。

○新車販売台数【エコカー補助金終了の影響から、2か月連続の減少】



(資料)社団法人日本自動車販売協会連合会、社団法人全国軽自動車協会連合会。

○家計消費支出【大阪市は減少】

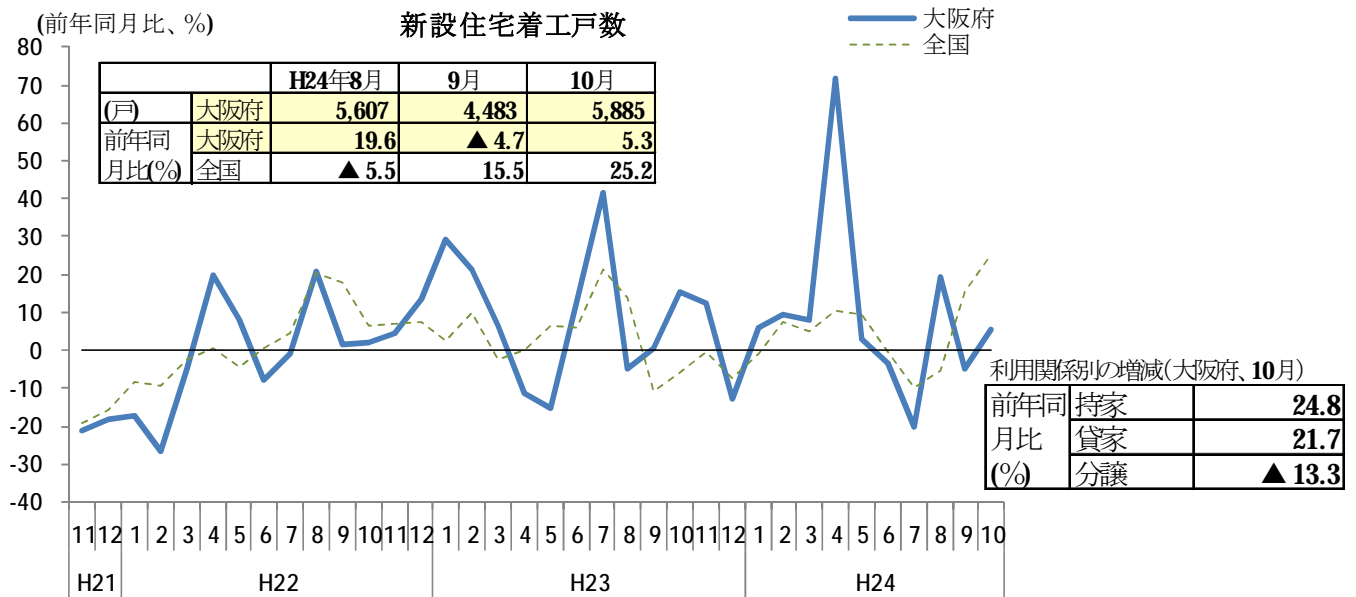
		H24年8月	9月	10月
(円)	大阪市	316,091	274,534	P 266,588
前年同月比(%)	大阪市	23.7	7.0	P ▲3.7
	全国	1.4	▲1.2	P ▲0.5

(資料)総務省「家計調査」 ※二人以上の世帯、一世帯当たりの名目。

[需要]投資

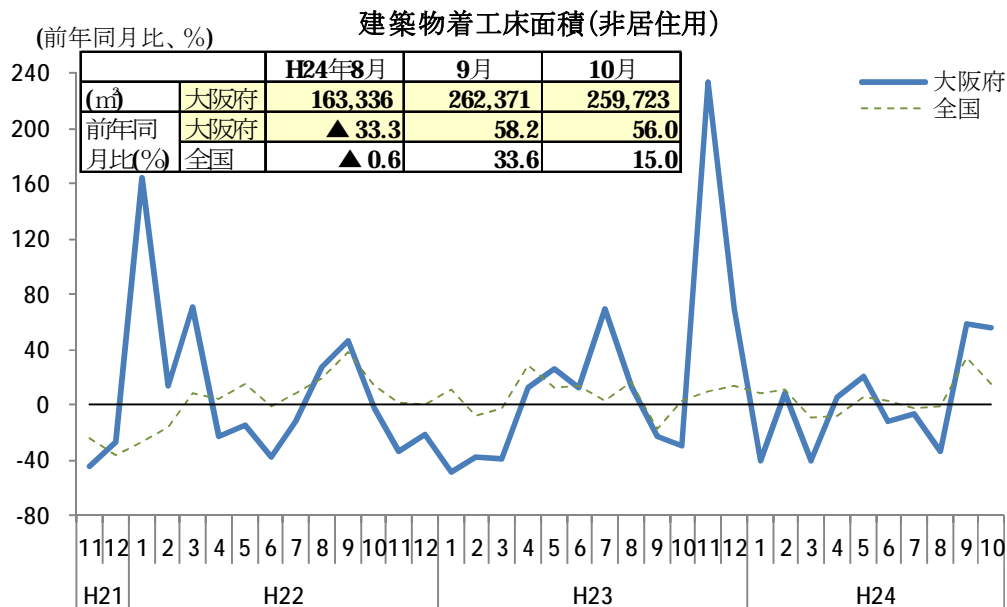
投資は、住宅投資は増加。設備投資(7～9月期)の実績は減少したが、建設投資(10月)は増加。公共投資は増加。

○新設住宅着工戸数【2か月ぶりの増加】



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

○建築物着工床面積(非居住用)【大阪府は2か月連続の増加。運輸業、不動産業などが増加】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

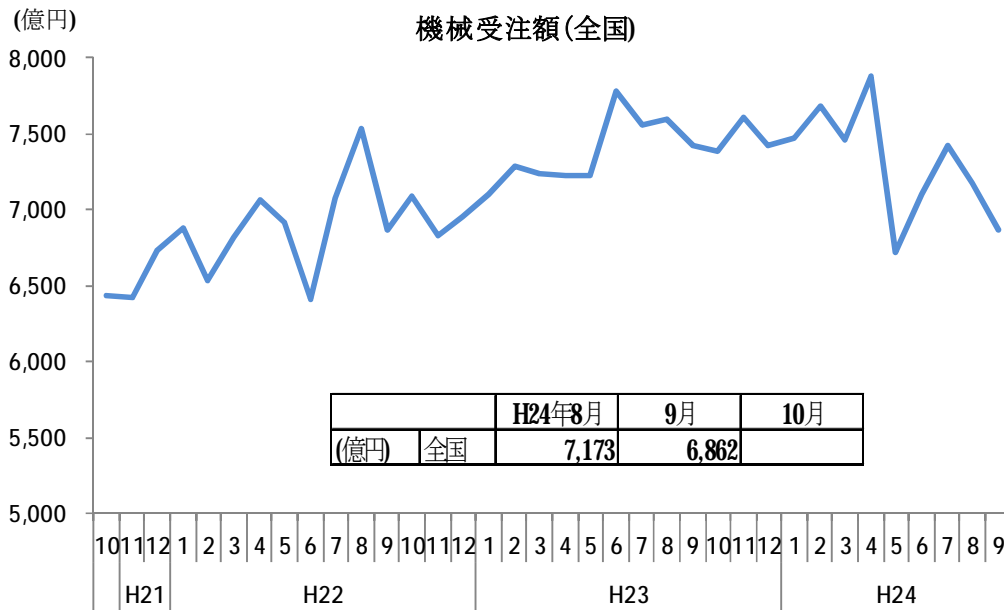
着工床面積の主な増減(%(前年同月比の寄与度※)、10月)

増加	減少
運輸業(22.0)	製造業(▲2.6)
不動産業(16.0)	
医療福祉(11.0)	

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。各寄与度の合計が全体の前年同月比と一致する。

[需要]投資

○機械受注額【9月(全国)は減少】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」 ※季節調整済。

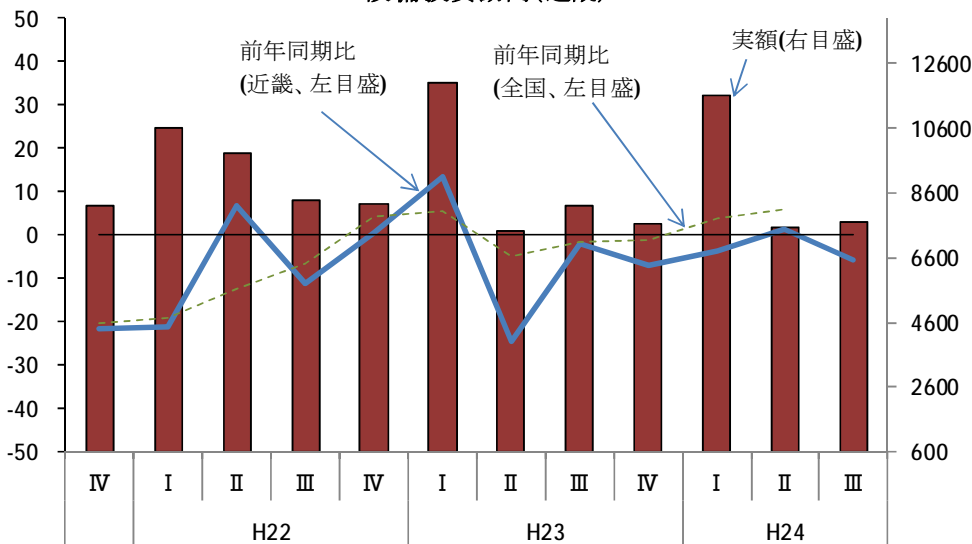
○近畿の設備投資動向【7～9月期は減少】

		H24年1～3月	4～6月	7～9月
(億円)	近畿	11,606	7,531	7,723
前年同	近畿	▲3.5	1.5	▲5.8
期比(%)	全国	3.7	6.0	

(前年同期比、%)

設備投資動向(近畿)

(億円)



(資料)近畿財務局「法人企業統計調査」、財務省「法人企業統計」 ※全産業(金融・保険業を除く)、ソフトウェアを含む。

○公共工事請負金額【3か月ぶりの増加】

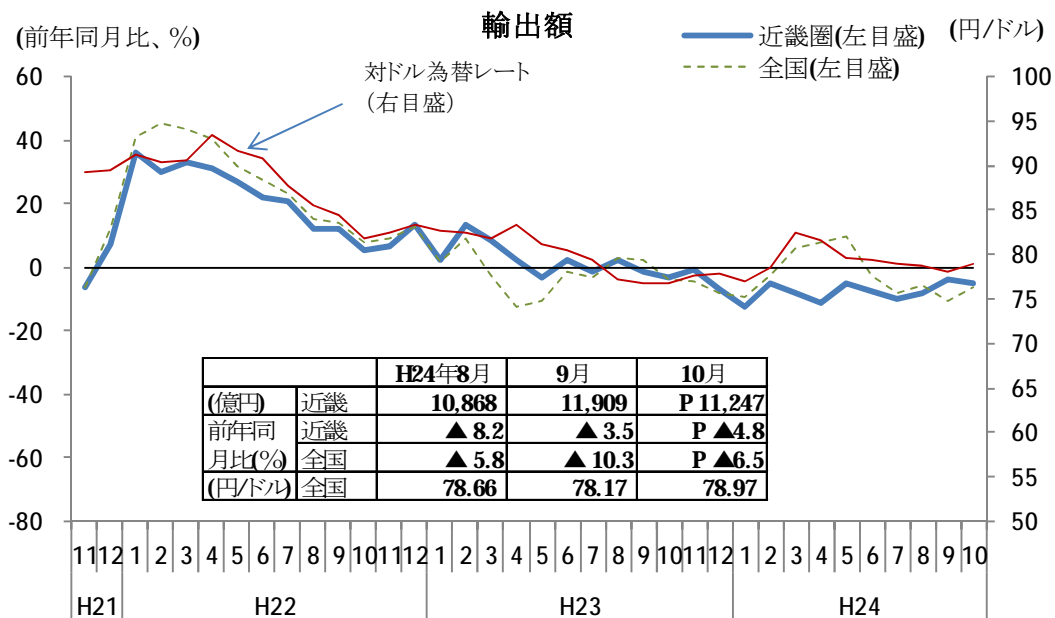
		H24年8月	9月	10月
(億円)	大阪府	222	256	326
前年同	大阪府	▲10.0	▲19.4	28.4
期比(%)				

(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事前払保証統計」

[需要]貿易・貨物

輸出は、海外経済減速などの影響で建設用・鉱山用機械などが減少し、引き続き弱含んでいるが、半導体等電子部品は増加。輸入は2ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空は減少、大阪港は増加。

○輸出額【14か月連続の減少。建設用・鉱山用機械などが大きく減少するも、半導体等電子部品などは大きく増加。主要国・地域はアメリカ以外減少】



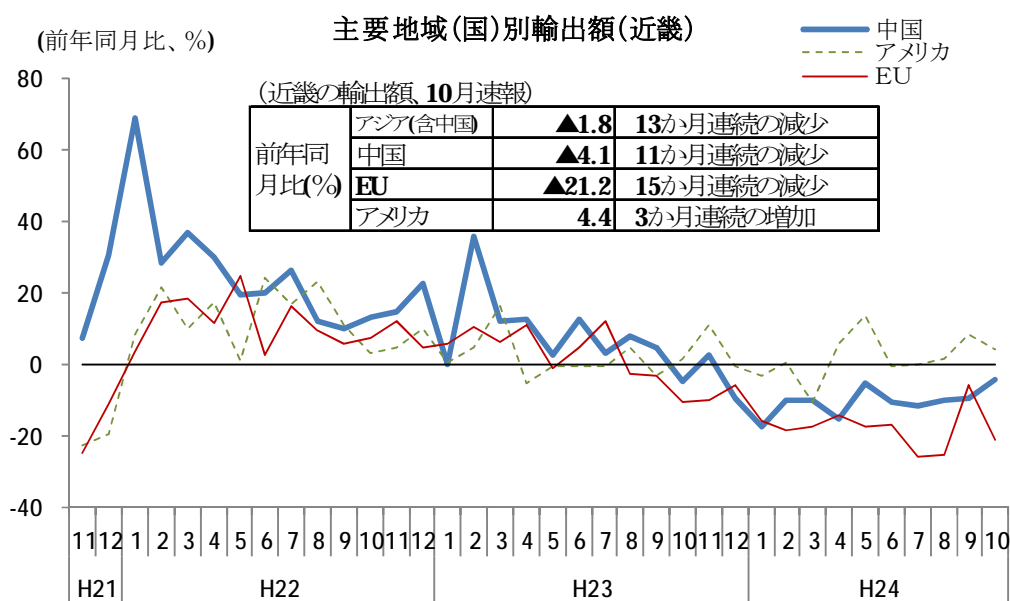
(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

品目別の主な増減(近畿、前年同月から増減額順、10月速報)

増加	減少
半導体等電子部品	建設用・鉱山用機械
科学光学機器	鉄鋼
金属加工機械	半導体等製造装置

(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」



(資料) 大阪税関「貿易統計」

[需要]貿易・貨物

○輸入額【2か月連続の増加。通信機などが増加】

		H24年8月	9月	10月
(億円)	近畿	11,211	P 11,115	P 11,262
前年同	近畿	▲0.9	P 1.1	P 0.1
月比(%)	全国	▲5.3	P 4.1	P ▲1.6

主要地域(国)別の増減(近畿の輸入額、10月速報)

前年同 月比(%)	アジア(含中国)	▲2.4	2か月ぶりの減少
	中国	▲0.8	2か月ぶりの減少
	EU	20.0	2か月ぶりの増加
	アメリカ	6.3	2か月ぶりの増加

品目別の主な増減(近畿、前年同月から増減額順、10月速報)

増加	減少
通信機	音響・映像機器(含部品)
医薬品	天然ガス及び導管ガス
衣類及び付属品	鉄鋼

(資料)大阪税関「貿易統計」

○関空取扱貨物量【5ヶ月ぶりの減少】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【3ヶ月ぶりの増加】

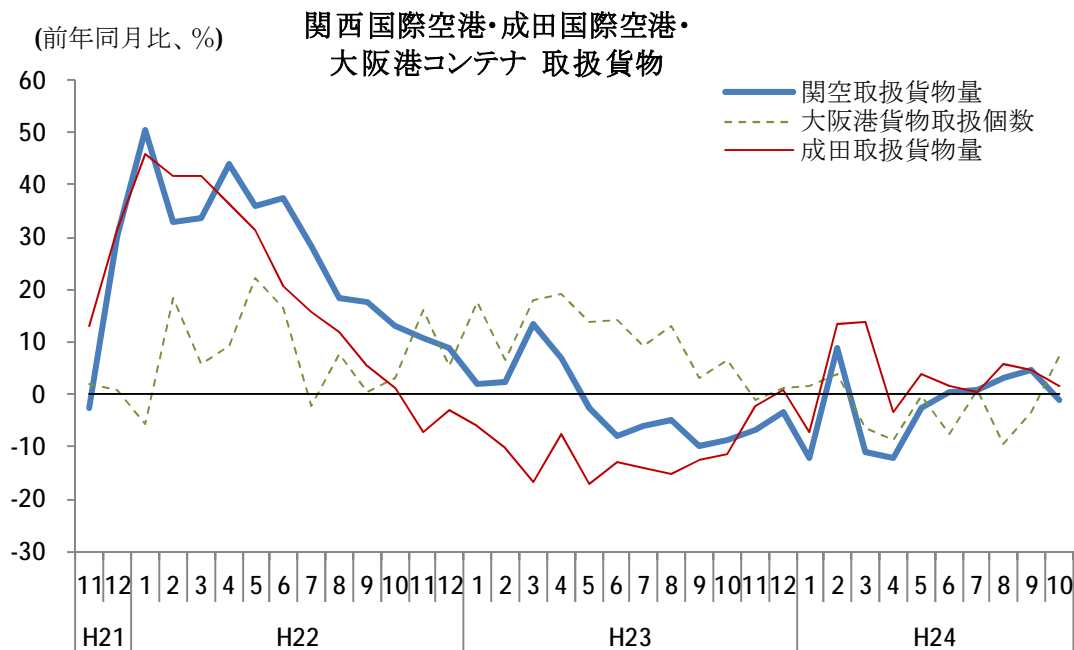
(関空取扱貨物量)

	H24年8月	9月	10月
(千トン)	P 58	P 62	P 60
前年同期 比(%)	P 3.2	P 4.8	P ▲1.2

(大阪港コンテナ貨物取扱個数)

	H24年8月	9月	10月
(千TEU)	P 176	PP 176	PP 197
前年同期 比(%)	P ▲9.6	PP ▲3.4	PP 7.4

※PP は速速報。



(資料)新関西国際空港株式会社「運営概況」、大阪市「港湾統計」、成田国際空港株式会社「運用状況」。

※関西・成田国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貿の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

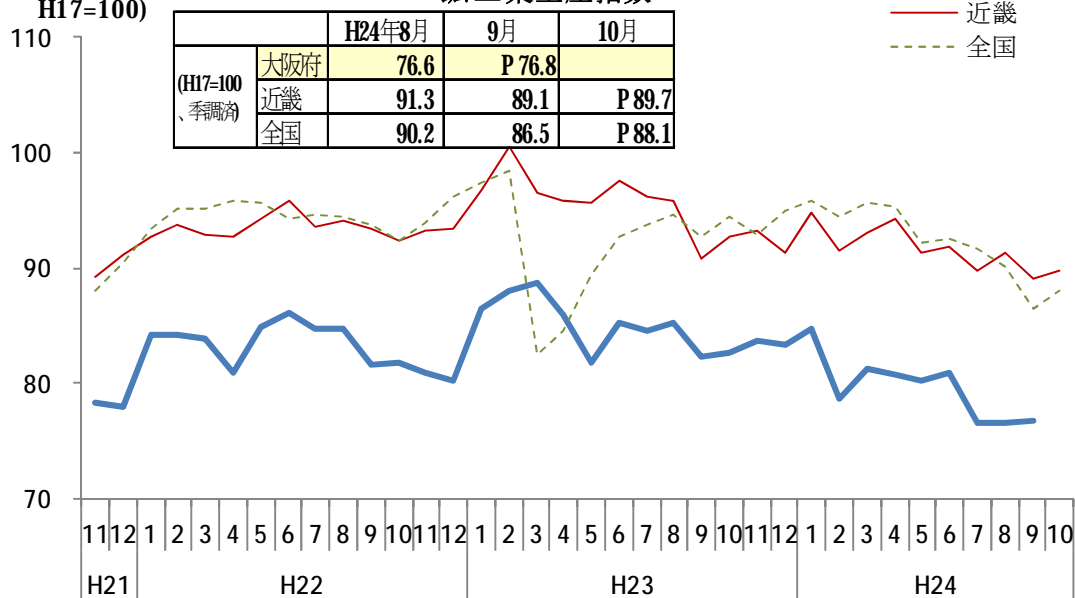
[供給]生産

大阪府(9月)の生産(製造工業)は、電子部品・デバイスの好調を受けわずかに上昇するも、数ヶ月の動きをみると横ばい。近畿・全国の生産(10月、鉱工業)は上昇。

○鉱工業生産指数【大阪府(9月)は3ヶ月ぶりにわずかに上昇。金属製品、電子部品・デバイスなどが上昇。近畿(10月)は2ヶ月ぶりの上昇。全国(10月)は上昇】

(季節調整済、
H17=100)

鉱工業生産指数



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数。

産業別の主な変動(大阪、()内は%(前月比)、寄与度順、9月速報)

上昇	低下
金属製品(14.0) 橋りょう、鉄骨等	化学(▲4.2) ポリプロピレン、溶剤系合成樹脂塗料等
電子部品・デバイス(14.4) 通信・電子装置用スイッチ等	電気機械(▲7.8) リチウムイオン蓄電池、セパレート形エアコン等
プラスチック製品(3.5) プラスチック製容器(中空成形)、プラスチック製パイプ等	情報通信機械(▲29.4) プロジェクタ等

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」

○鉱工業出荷指数【大阪府(9月)は4ヶ月ぶりの上昇。金属製品、一般機械などが上昇。近畿(10月)は2ヶ月連続の低下。全国(10月)は横ばい】

	H24年8月	9月	10月
大阪府	75.7	P 78.3	
近畿	90.8	89.7	P 89.5
全国	91.5	87.6	P 87.6

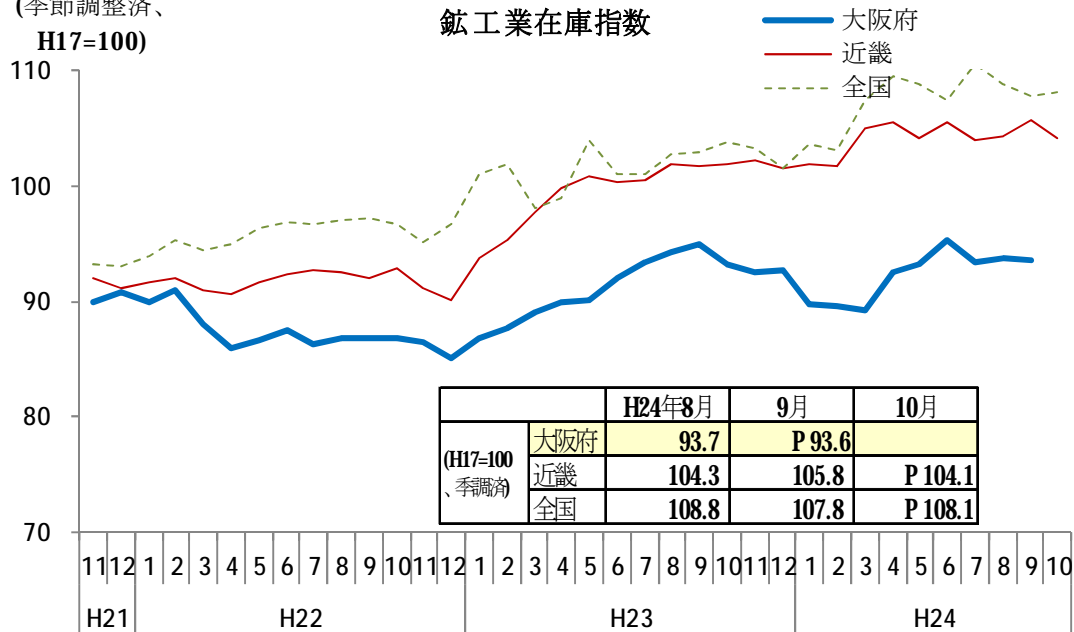
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数

[供給]生産

○**鉱工業在庫指数【大阪府(9月)は2ヶ月ぶりにわずかに低下。一般機械、石油・石炭製品などが低下。近畿(10月)は3ヶ月ぶりの低下。全国(10月)は上昇】**

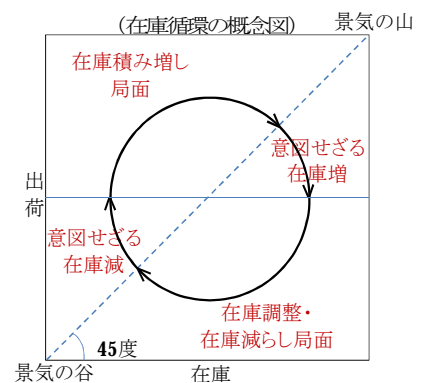
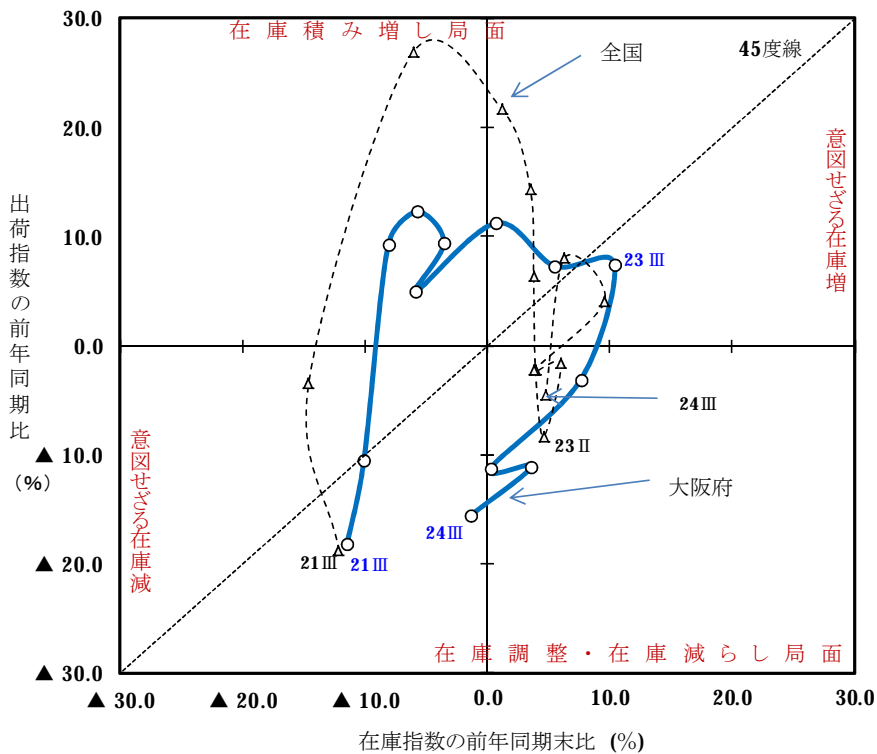
(季節調整済、
H17=100)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数

○**在庫循環図【大阪府・全国とも在庫調整・在庫減らし局面】**



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」

※出荷指数は原数値の四半期平均。在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給]雇用・倒産

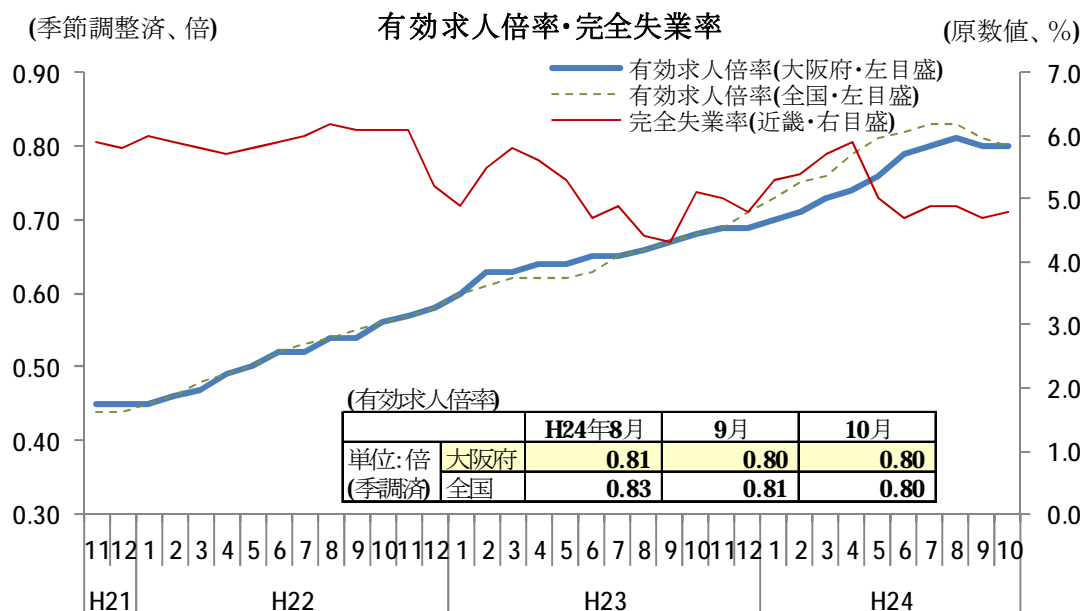
近畿の失業率は改善、有効求人倍率は横ばい、新規求人倍率は上昇、所定外労働時間は増加するなど、雇用は緩やかな持ち直しの動き。倒産は件数は減少、負債金額増加。

○完全失業率【近畿(10月)は前年同月差で低下(改善)。大阪(7～9月期)は7期ぶりの上昇(悪化)】、有効求人倍率【大阪は横ばい】

(完全失業率)

		H24年8月	9月	10月
(%)	近畿	4.9	4.7	4.8
前年同月差	近畿	0.5	0.4	▲0.3
(%)	全国	4.2	4.2	P 4.2
前月差	全国	▲0.1	0.0	P 0.0
		H24年1～3月	4～6月	7～9月
(%)	大阪府	5.3	5.4	5.6

※近畿は原数値、全国は季節調整済、大阪府はモデル推計による参考値。



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」、「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

若年者の有効求人倍率(大阪府、10月)

(倍)	24歳以下	0.89
	25～34歳	0.89

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む。

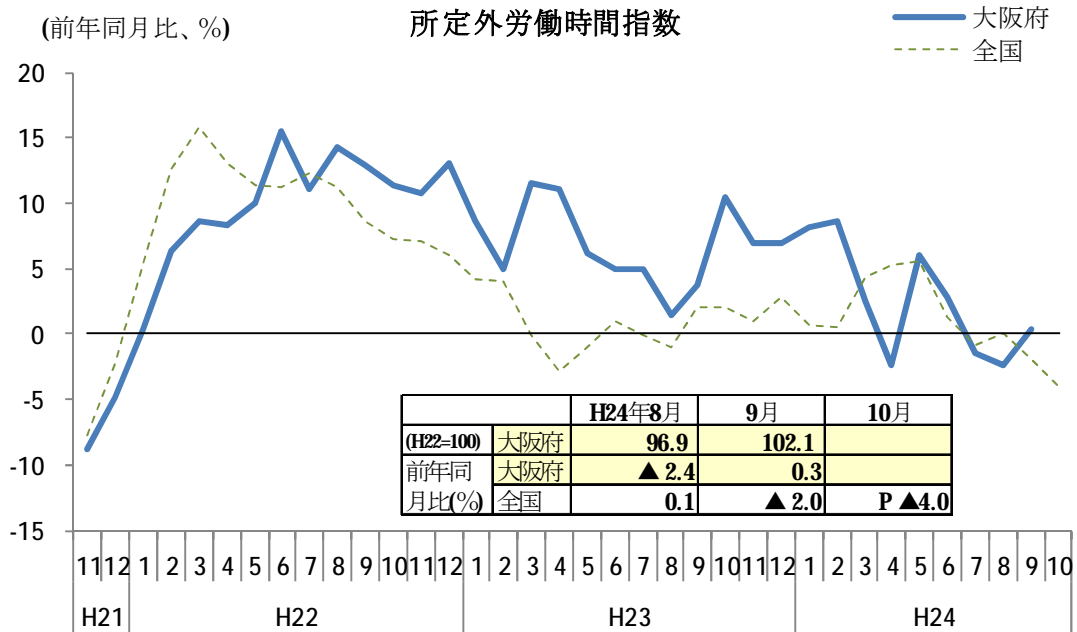
○新規求人倍率【大阪府は2ヶ月ぶりの上昇】

		H24年8月	9月	10月
単位: 倍	大阪府	1.35	1.25	1.33
(季調済)	全国	1.33	1.24	1.29

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」 ※パートを含む。

[供給]雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(9月)は3ヶ月ぶりの増加。主に運輸業、郵便業、宿泊業、飲食サービス業などが増加】



(資料)大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」、総務省「毎月勤労統計調査」

※H22=100、事業所規模5人以上。

産業別所定外労働時間の主な増減(大阪府、%(実数の前年同月比)、9月)

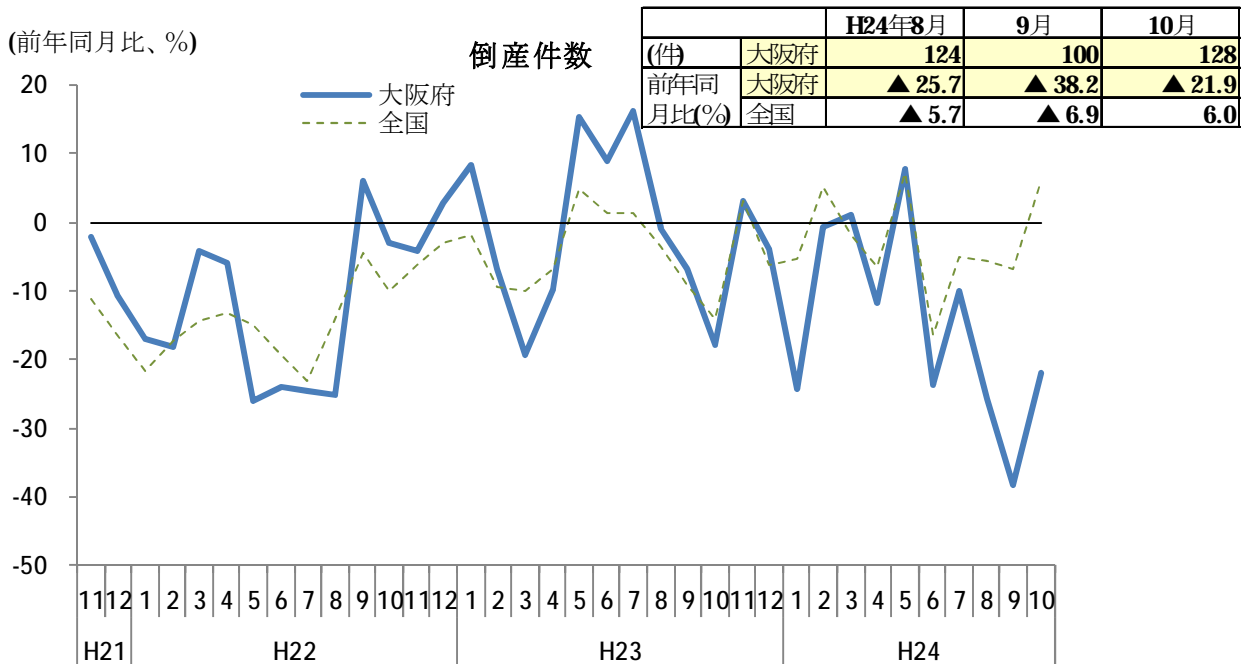
増加	減少
運輸業、郵便業(35.0)	複合サービス事業(▲33.1)
宿泊業、飲食サービス業(12.3)	医療、福祉(▲27.2)
情報通信業(9.6)	電気・ガス・熱供給・水道業(▲22.1)

(資料)大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」

※事業所規模5人以上

[供給]雇用・倒産

○倒産件数【5か月連続の減少(改善)】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

○負債金額【3か月ぶりの増加(悪化)】

		H24年8月	9月	10月
(億円)	大阪府	128	79	176
前年同	大阪府	▲29.6	▲68.5	18.5
月比(%)	全国	▲72.7	▲17.7	53.5

大阪府の主な倒産(10月)

業種	負債額(百万円)	倒産原因
ホテル、レジャーセンター経営	3,600	販売不振
リネンサプライ、物品リース	2,800	放漫経営
リネンサプライ、クリーニング業	1,280	他社倒産の余波
生コンクリート製造、販売	1,100	過小資本

(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

件数の多い業種(大阪府、単位:件、10月)

建設業	22
生活関連サービス業、娯楽業	8
その他の小売業	7
医療、福祉事業	7

(資料)東京商工リサーチ資料

資本金別倒産状況(大阪府、10月)

	件数(件)	構成比(%)
1億以上	2	1.6
5千万以上・1億未満	2	1.6
1千万以上・5千万未満	42	32.8
5百万以上・1千万未満	9	7.0
1百万以上・5百万未満	23	18.0
1百万未満	2	1.6
個人企業他	48	37.5
合計	128	100.0

(資料)東京商工リサーチ資料

その他[物価]

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は低下。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数も低下。主に野菜・海藻、電気洗濯機などが低下】

(生鮮食品を除く総合指数)

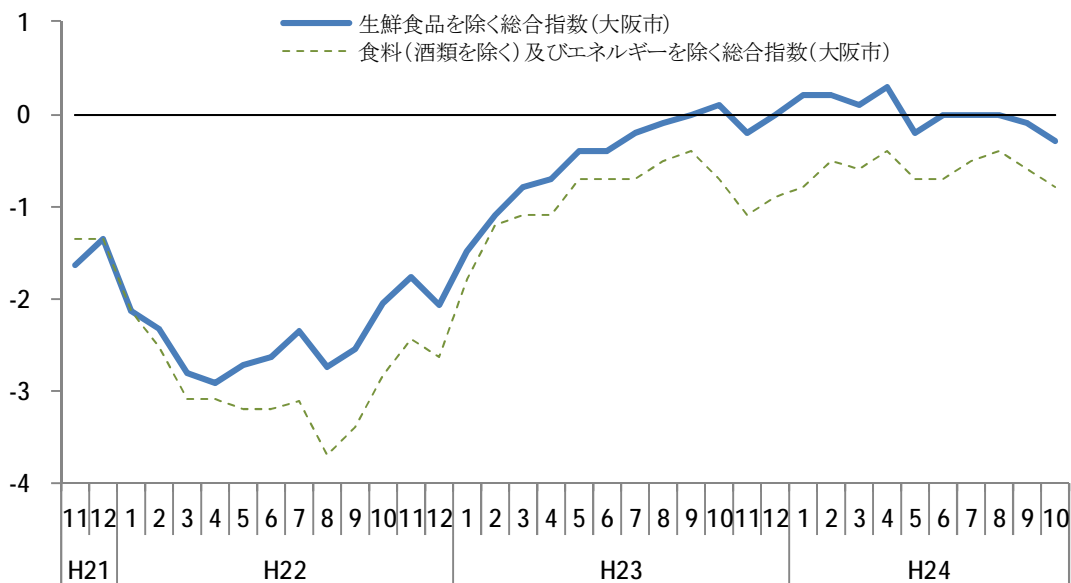
		H24年8月	9月	10月
(H22=100)	大阪市	99.5	99.6	99.6
前年同	大阪市	0.0	▲0.1	▲0.3
月比(%)	全国	▲0.3	▲0.1	0.0

(食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数)

		H24年8月	9月	10月
(H22=100)	大阪市	98.4	98.5	98.5
前年同	大阪市	▲0.4	▲0.6	▲0.8
月比(%)	全国	▲0.5	▲0.6	▲0.5

(前年同月比、%)

消費者物価指数



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」

※H22=100

主に変動した分類(大阪市、%(前年同月比)、10月速報)

上昇	低下
ガス代(4.0) 都市ガス代、プロパンガスなど	野菜・海藻(▲12.5) レタス、はくさい、キャベツなど
他の光熱(3.3) 灯油など	家庭用耐久財(▲9.6) 電気洗濯機、電気冷蔵庫など
	シャツ・セーター類(▲6.6) 婦人セーター、男子セーターなど

(出所)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」

その他[物価]

○企業物価指数【国内企業物価指数、輸出物価指数は低下、輸入物価指数は上昇。原油価格は低下】

(国内企業物価指数)

		H24年8月	9月	10月
前年同月比(%)	全国	▲1.9	▲1.5	P ▲1.0

(輸出物価指数)

		H24年8月	9月	10月
前年同月比(%)	全国	▲2.5	▲2.0	P ▲0.4

(輸入物価指数)

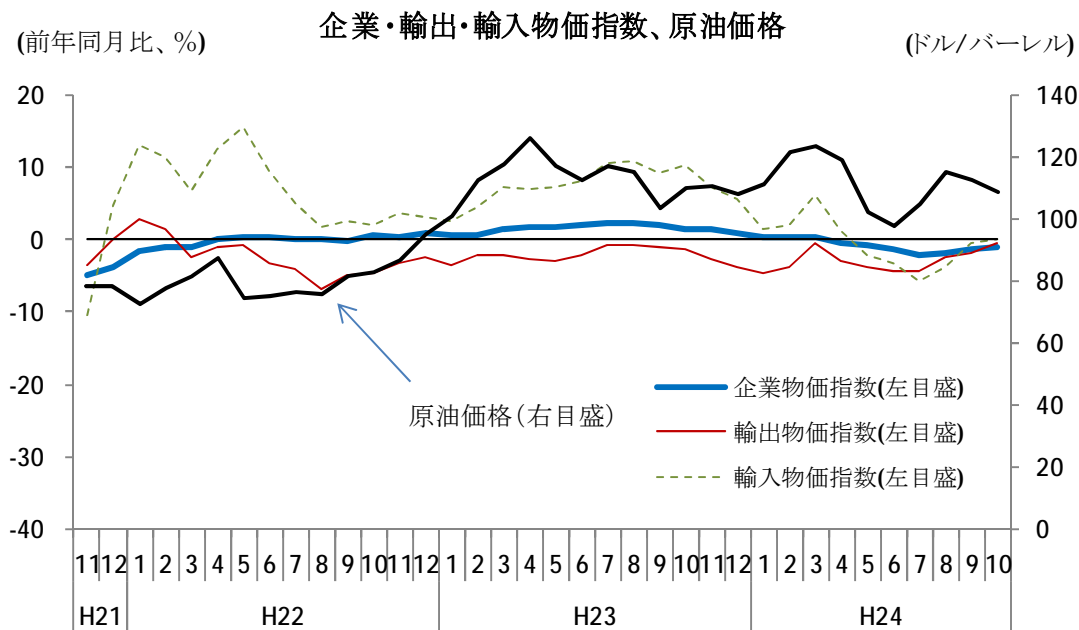
		H24年8月	9月	10月
前年同月比(%)	全国	▲3.8	▲0.6	P 0.1

(原油価格)

	H24年8月	9月	10月
(ドル/バーレル)	114.77	112.40	108.64

※H22=100

※北海ブレント・スポット・月末。



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、日本銀行「金融経済統計月報」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。原油価格は、北海ブレント・スポット・月末。

※物価指数は、H22=100。

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した主な類別・品目(10月速報)

類別	寄与度(%)	寄与した主な品目
電力・都市ガス・水道	▲0.32	業務用高圧電力、産業用高圧電力、産業用特別高圧電力
鉄鋼	▲0.05	鉄鋼切断品(薄板)、熱延広幅帯鋼、小形棒鋼
食料品・飲料・たばこ・飼料	0.08	配合飼料、大豆かす、なたねかす
化学製品	0.07	キシレン、エチレン

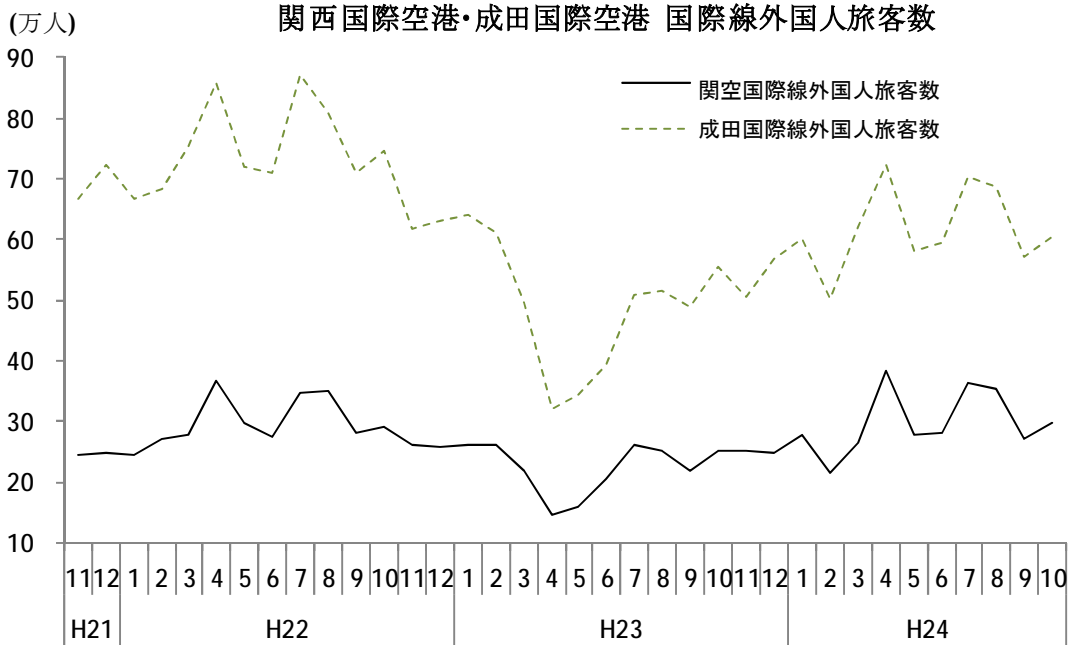
(出所) 日本銀行調査統計局「企業物価指数」

その他[観光]

○関西国際空港 国際線外国人旅客数【8ヶ月連続の増加】

(関空外国人旅客数)

	H24年8月	9月	10月
(万人)	P 36	P 27	P 30
前年同月比(%)	P 41.7	P 23.5	P 17.5

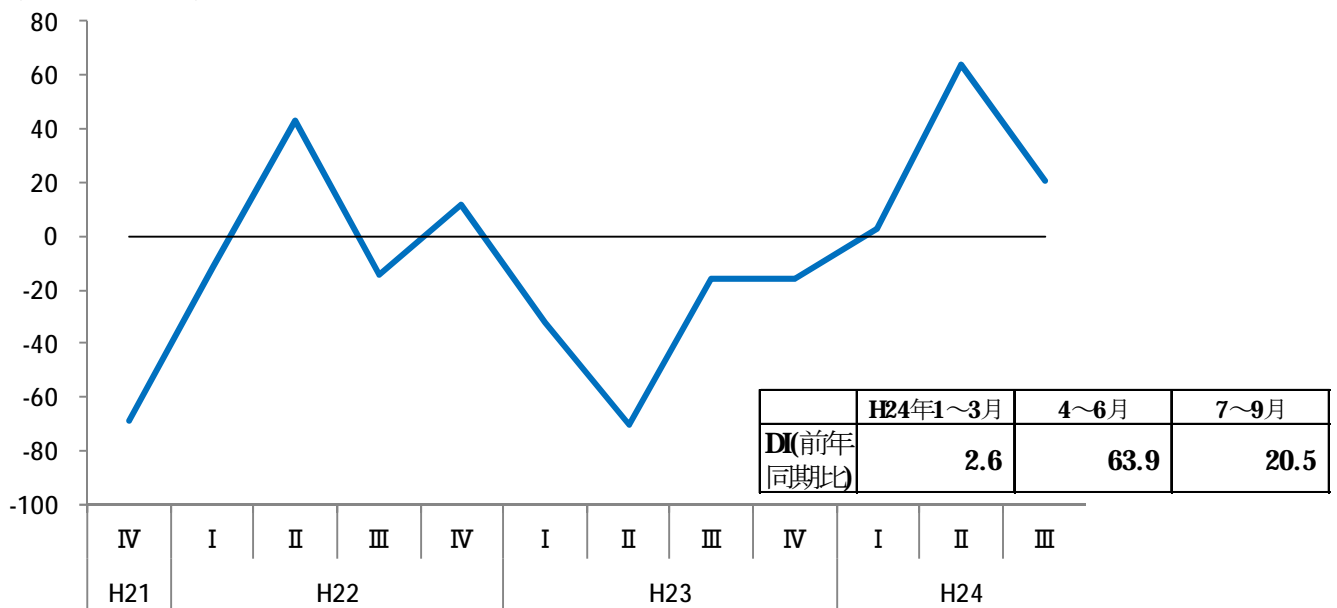


(資料) 新関西国際空港株式会社「運営概況」、成田国際空港株式会社「運用状況」。

○ビジット大阪指数(DI)【7～9月期は前年同期比で低下】

(前年同月比、DI)

ビジット大阪指数



(資料) 大阪府国際交流・観光課「大阪府観光統計調査」。

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

[トピックス]

○関西経済の現況と予測

(資料)一般財団法人 アジア太平洋研究所「関西エコノミックインサイト No.16(2012年11月28日)」を基に作成。

(<http://www.apir.or.jp/ja/trend/pdf/200.Pdf.pdf>)

【最悪期は過ぎたが依然不透明感の高い関西経済ーチャイナ・リスクの影響は関西経済にとっては限定的ー】

(要旨)

- 関西経済は足下、弱含んでいる。生産面では、下落基調にあった一般機械や電子部品・デバイスが底を打ったことなどから、関西製造業にとっての最悪期は脱したとみられる。今後は海外環境の改善により、純輸出による関西経済の持ち直しが期待される場所であるが、不確実性が高く回復には幅をもってみなければならない。
- 関西の実質 GRP 成長率を 2012 年度-0.2%(前回:+0.8%)、13 年度+1.3%(前回:+1.1%)、14 年度-0.0%と予測する。復興需要が見込めない、自治体の歳出抑制、チャイナ・リスクの高まりからの輸出減少が 12 年度の関西経済低調の理由である。
- 関西のチャイナ・リスクにかかわる外需の下方修正幅は全国よりも小さい。関西は中国向け輸送用機器の輸出シェアが小さく、自動車の不買運動の影響は比較的軽微であるとともに、関西が比較優位を持つ電気機器が中国向け輸出にプラスに寄与していることが影響している。
- 今冬はこれまでに比べて電力需給状況に余裕がある。

◆予測の結果

	2012年度	2013年度	2014年度
実質域内総生産	▲ 0.2	1.3	▲ 0.0
民間最終消費支出	0.8	1.1	▲ 0.7
民間住宅	0.4	7.3	▲ 12.2
民間企業設備	3.4	3.7	3.9
政府最終消費支出	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 0.0
公的固定資本形成	▲ 8.3	▲ 4.0	▲ 0.8
移輸出	0.3	2.6	1.4
うち輸出	▲ 0.6	2.5	4.3
うち移出	1.2	2.7	▲ 1.4
移輸入	1.7	2.1	0.7
うち輸入	3.3	3.5	3.0
うち移入	1.1	1.5	▲ 0.2

◆関西の実質 GRP 成長率と各部門の寄与度

